

アートフィールドウォーキングガイド

2022 vol.2 (通巻 442号)

ギャラリー

2

# GALLERY

[私の10点] 与 勇輝

特集 この春、卒展開催データ

アート松井塾 松井守男×澤山精一郎

2月の全国美術展【美術館/百貨店/画廊】スケジュール&マップ

# ポール・アイズピリ展

1月29日→2月20日  
ギャラリーためなが（銀座）⑬



〈バラとチューリップ〉65×54cm



〈サントロペ〉146×114cm



〈ノートルダムを望む〉150×150cm

ポール・アイズピリ（1919～2016）の展覧会はギャラリーためながが東京店では3年ぶり。3年前はギャラリーの50周年を記念した企画の第一弾として開催された。今展でも、屈指のアイズピリコレクションを誇るギャラリーならではの初期から晩年まで約40点を展示、作家の全体像を伝える。

バスクの家系を引く彫刻家の父とイタリア人の母のもとパリに生まれた。幼少期から絵筆を執り、17歳でエコール・デ・ボザールに入学した。26歳でサロンドートンヌ会員推挙。1951年にはヴェネツィア・ビエンナーレのナショナル大賞を受賞するなど早くから評価を得た。

「私は馬鹿げた感じのこの非現実さが

大好きだ。惹かれるものがある」と語り、嬉々としてキャンバスにと向かっていったという。楽し気に画の中を飛び交うモチーフたちは画家自身の精神そのものだったのだろう。

「本からはインスピレーションを受けたくないのです、私なりのやり方で表現物を創り出している。私の世界から出てきた、アイズピリの小さな動物たちを。私は幸せなことに、この手のおかげで幻想も幸福も表現することができる」。90歳を超えてもなお意欲的に制作を続けた。

観る者に多幸感を与える作品群は3年前よりも多くの人々に必要とされていることだろう。